



株式会社オプトラ 2019年12月期第1四半期の決算説明をいたします。お手元のパワーポイント資料に基づいてご説明させていただきます。

I. 2019年12月期 第1四半期 決算概要	P 2
--------------------------------	------------

II. Appendix	P 8
---------------------	------------

I. 2019年12月期 第1四半期 決算の概要

- 決算ハイライト (連結)
- 受注高・受注残高 (四半期推移)
- 分野別売上構成
- 営業利益 (四半期推移)
- 財務の状況

決算ハイライト（連結）



業績は大幅伸長

- スマートフォンは北米系売上高が多いが、中国系の新規受注分売上高も貢献。
- カメラレンズ（監視カメラ）、IoT（生体認証・車載・半導体等）、LED向けも売上堅調。
- 米中貿易摩擦等の影響により、顧客の発注の先送りが顕著であったが、足元は改善の兆しあり。
- 短納期を求める顧客が増加し、きめ細かなコンタクトが必要な状況。
- 2019年業績予想比、1Q達成率は、経常利益36%・純利益43%

	2018年12月期 1Q	2019年12月期 1Q	（百万円）
			前年同期比
売上高	10,710	13,975	+30.5%
営業利益	3,263	4,126	+26.4%
（営業利益率）	30.5	29.5	—
経常利益	3,426	4,110	+20.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,381	3,605	+51.4%
研究開発費	829	739	△10.8%

3

それではまず3ページをお開きください。ここでは決算ハイライトのご説明です。まず当社の業績は大幅伸長でした。業績の内容につきましては、3ページの表に記載のとおりです。まず売り上げにつきまして、スマートフォンは北米関係の売り上げが多くありました。また中国系の新規受注分売上高も多くあり、売り上げに貢献しました。当社の傾向としましては、中国系のスマートフォンメーカーに関しては、もともと4大メーカーとのお付き合い、受注が多かったのですが、最近では4大メーカー以下の業者のほうからもコンタクトがあり、中国系スマートフォンメーカーの対応化が進んでおります。

続きましてスマートフォン以外の売り上げに関してご説明します。カメラレンズは監視カメラが多くあります。その監視カメラ関係、IoT、LED向けの売り上げも堅調でした。

昨今、米中貿易摩擦の影響というお問い合わせもありますが、米中貿易摩擦の影響により、顧客の発注の先送りが顕著でしたが、足元としては改善の兆しがありました。

顧客動向に関しては4行目に書いておりますが、短納期を求める顧客が増加し、より一層きめ細やかなコンタクトが必要な状況です。

5行目の2019年の予測比に関して言いますと、1Q達成率は経常利益36%、純利益で43%でした。また業績予想につきましては、本資料の12ページに記載がありますので、後ほどご確認ください。

受注高・受注残高（四半期推移）



<2019年・1Q受注高>

- 米中貿易摩擦の影響があるが、改善の兆し有り。
- 受注構成はスパッタ装置5割、蒸着装置4割。新型装置の受注は10%程度。
- スマートフォンでは、中国・韓国等東アジアからの受注が回復傾向。3D・筐体バックガラス成膜装置の受注堅調。
- カメラレンズでは、中国の監視カメラメーカーから高機能成膜装置の受注堅調。
- IoT（車載・生体認証・半導体）やLEDでも受注を確保。

4

次に4ページの受注高・受注残高のご説明をいたします。2019年1Qの受注高につきましては4ページの表に記載のとおりですが、受注高67億9,000万円、受注残高は32億4,300万円でした。その内容といたしましては、米中貿易摩擦の影響がありましたが、改善の傾向がありました。

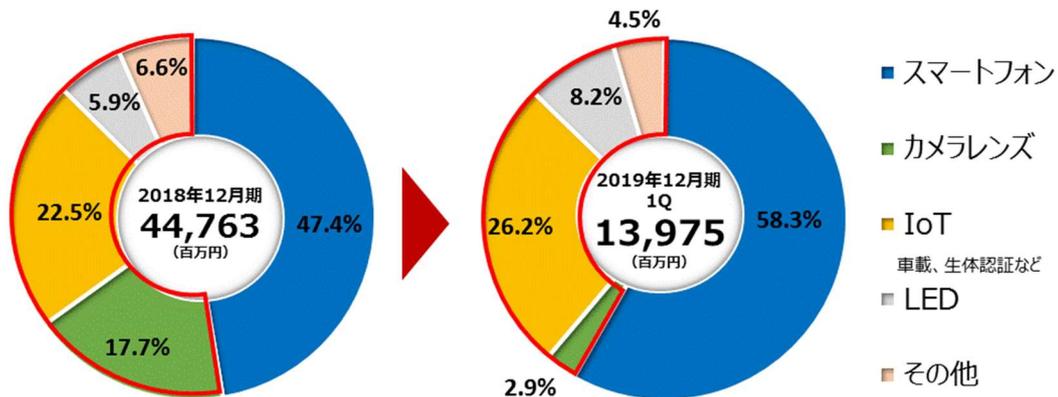
受注構成としましてはスパッタ装置が5割、蒸着装置が4割、新型装置、この新型装置はすなわち半導体光学融合装置やLED向けDBRやTCO膜装置、車載用関係の新型装置を指しておりますが、その受注は10%程度ありました。

用途別の顧客の状況としましては、スマートフォンでは中国、韓国等東アジアからの受注が回復傾向です。3Dや筐体バックガラスの成膜装置の受注が堅調でした。またカメラレンズでは、中国の監視カメラメーカーから高機能成膜装置の受注も堅調でした。またIoTやLEDでも受注を確保している状況です。

分野別売上構成



- 1Qは、スマートフォンで北米に加え、中国系の新規受注分の売上計上。IoT、LEDが堅調。
- 中国系は短納期・価格下げ要求が強い。
- 新型開発装置の量産レベルでの技術完成と本格的マーケティングに取り組んで行く。



5

続きまして、5ページの分野別売上構成についてご説明します。分野別の売上構成といたしましては5ページに記載のとおりです。第1四半期は、スマートフォンで北米に加えて中国系の新規受注分の売上計上がありました。またIoTやLEDも堅調でした。ただ、先ほどもご説明しましたが、中国系のお客様におきましては短納期の要望や価格下げ要求が強くあります。当社といたしましては、新型開発装置の量産レベルの技術完成と、本格的マーケティングに取り組んでいきたいと考えております。

営業利益（四半期推移）



<2019年・1Q営業利益>

- 営業利益率は29.5%と高水準
 - 原価率はやや上昇（前年同期比+4.2%）
 - 売上高増に伴い、販管費率ダウン（前年同期比・△3.2%）。
- ・連結原価率は57.5%であり、引き続き良好。

6

続きまして営業利益のご説明です。2019年1Q営業利益についてご説明します。営業利益率は29.5%と高水準でした。原価率はやや上昇傾向にありまして、前年同期比で4.2%でした。販管費率は減少しており、前年同期比マイナス3.2%でした。売上高が増加したことにより、売上高に占める販売管理費率がダウンしました。原価率はやや上昇しましたが、連結原価率といたしましては57.5%で、引き続き良好な状況です。

財務の状況



(百万円)

	2018年12月末		2019年3月末		増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
流動資産	48,142	86.5%	45,308	84.6%	△2,834
現金・預金	15,740	28.3%	17,664	33.0%	+1,923
受取手形・売掛金	6,837	12.3%	8,680	16.2%	+1,843
棚卸資産	24,487	44.0%	18,476	34.5%	△6,011
貸倒引当金	△420	△0.8%	△399	△0.7%	20
その他	1,497	2.7%	886	1.7%	△610
固定資産	7,501	13.5%	8,235	15.4%	+734
資産合計	55,644	100.0%	53,543	100.0%	△2,100
流動負債	25,922	46.6%	21,944	41.0%	△3,977
支払手形・買掛金	1,652	3.0%	1,412	2.6%	△239
短期有利子負債	756	1.4%	756	1.4%	+0
未払法人税	1,143	2.1%	576	1.1%	△566
前受金	20,108	36.1%	17,212	32.1%	△2,896
その他	2,261	4.1%	1,986	3.7%	△274
固定負債	1,658	3.0%	1,812	3.4%	+153
長期有利子負債	233	0.4%	230	0.4%	△3
その他	1,425	2.6%	1,581	3.0%	+156
負債合計	27,581	49.6%	23,757	44.4%	△3,824
純資産合計	28,062	50.4%	29,786	55.6%	+1,724
負債純資産合計	55,644	100.0%	53,543	100.0%	△2,100

・売上増により、棚卸資産の減少

・売上計上により、前受金の減少

続きまして7ページの財務の状況です。当社の財務の状況につきまして、2019年12月1Qは表の一番下にあるとおり、負債純資産合計でマイナス21億円となりました。その理由としましては、当社では売り上げが増加したことにより現金・預金の回収、受取手形・売掛金が増加したこと、また棚卸資産や前受金が減少したことによります。以上で財務の状況のご説明とさせていただきます。

以上